

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【琵琶湖開発】

平成21年 3月

**独立行政法人水資源機構
関西支社**

【琵琶湖開発】

まえがき

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
	<p>・トータルとしての容量的な土砂の認識は前書きにあるようなことで良いが、航路浚渫や浜欠けがあるという実情で、湖岸管理の面で、土砂の動きは重要である。琵琶湖流砂系として見た場合の土砂の動き方をどう捉えていくか。そういう捉え方をする事が、環境面においても管理コスト面においても重要と考える。その点をどう考えているのか。</p>	<p>・まえがきに、本編の1.3.3(2)で湖岸の管理について、6.3.2(5)で湖岸侵食対策工について記載している旨を追加する。</p> <p>・航路浚渫（本編P1-80～82）は、低水位までの航路としての利用を考えると、波浪等の支障が生じている。サイクル的に航路の維持管理を継続していく必要がある。南湖の深堀箇所航路浚渫土を戻したり、土地区画整理事業に航路浚渫土を利用したり、いくつか取り組みを実施中。</p>	<p>本編に記載の取り組みを継続して実施していく。</p>

1. 事業の概要

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
<p>1.1.2 自然環境</p> <p>本編 P1-28</p>	<p>・長期間の水循環の計算はしているのか。河川管理者が流域全体の水循環を把握していないのはいかなものか。</p>	<p>・図を追加する。</p>	<p>・今後の課題としては気候変動があると認識しているが、現時点では研究レベルである。やらなければならないと認識しているが、まず枠組み作りから検討したい。</p>

2. 洪水調節
特になし

3. 治水補給
特になし

4. 水質
特になし

5. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.2 生物相の 経年変化 本編 P5-30～	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ面積が増えているのは自然のヨシ群落増加と見ていいのか、開発前との比較が分かれば、教えて欲しい。 ・植栽やビオトープによって良くなったという評価よりも、琵琶湖本来の自然環境の変化の長期的な視点の評価が重要である。事業によって、琵琶湖本来の自然がどう変わったかの視点が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県のヨシ群落保全審議会資料等を基にヨシ群落面積の変遷を整理し、追加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も生物生息状況の監視を継続していく。
5.4 まとめ 本編 P5-106	<ul style="list-style-type: none"> ・赤野井は3大ヨシ帯だが、湖岸堤で分断されている。空撮では、オギに変わっている等の細部が分からないので、質的な部分の調査も出来ないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・湖岸の植生分布について、周辺の関係機関等の研究情報等を収集した。 ・代表地点については現地調査を実施しているが、今後の対応として、ヨシ群落の質的变化に着目した調査を実施する旨を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の取り組みをふまえ、次回の定期報告書には取り込む予定。 ・今後の課題として現地調査時に質的变化の把握にも努める。
5.4 まとめ 本編 P5-16 P5-106 ～107 P6-33	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し、琵琶湖に関して外来種に注視していくことが重要。外来種に関するコメントが弱い。 ・本編P5-20～21にあるように、節目調査における植生の変化が定点調査にしては激しい。また、外来種の拡大が目立ち、問題点が顕著である。本編の記しかたにおいて問題意識が小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来生物の侵入に着目した調査を実施していく旨を追加する。 ・特定外来生物の早期駆除を目的とし、県やNPO等と連携して取り組みを行っている特定外来生物の駆除活動の状況を追加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来生物の侵入やヨシ群落の質的变化に着目した調査を実施していく。 ・国、県等と連携し、水域と陸域の連続性の確保と回復など、よりよい琵琶湖環境に向けて積極的に参画していく。

6. 環境保全対策

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.3.2 琵琶湖環境の保全と再生に向けた取り組みの現状 (1)環境の配慮した瀬田川洗堰の試行操作 P6-10~13	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、具体的な方法を本編に記していないが、記すのか。 ・概要版のまとめにある試行操作の記述が本編には記述されていない。 ・試行操作であるから詳細を記述しないのは、無責任である。結果的に環境面において、うまくいっていないのではないかと。操作の仕方を細かく変えていく事で、上手く行けそうなのか。 ・例えば、改善提案として、孵化したばかりの仔稚魚の多い時期の放流抑制の方が効果的では。最大の問題点は仔稚魚を流してしまうというのが漁組の課題認識である。仔稚魚がどれくらい出ているのか把握したうえで、水を流すという計画を立てたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本編まとめに記述を追加する。 ・試行操作の概要を再整理し、修正する。 ・別途、専門家による水陸移行帯ワーキングを続けていて、魚類の動態変動ともあわせて今後評価していく議論をしているところである。 ・漁連と県や国との見解に相違がある。どれ位仔稚魚が流れているかというメカニズムを、把握できていない。仔稚魚が下流に流されるといふメカニズムも勉強し、放流の仕方を検討したい。今後の課題と認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価・検討を継続して実施していく。

7. 水源地域動態

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
7 周辺地域動態	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖開発された周辺の土地利用について、市町村等と連携していくことを示してほしい。本編P7-8~9に示すように現在市街化区域は拡大中である。琵琶湖開発事業は、暮らしを守る最低限の治水事業であり、水に浸かることを前提にした対策や施策もある。このために生態系に負担をかけての事業であることを忘れないよう、水と人とのつきあい方を正常化するような、土地利用面での自治体との連携を深めていくことが重要である。今回はこの点を記して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内水排除の考え方を周知する取り組み、内水排除地区の現状把握を実施中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の定期報告書には取り組み状況を整理し、盛り込む予定である。